ＥＲＳ－２高度計による北西太平洋の海面高とその変動から求めた黒潮流路

Sea surface height and its variation in the northwestern Pacific and the Kuroshio route derived fron ERS-2 altimeter

 # 佐々木　稔[1]，山本　淳[2]
Minoru Sasaki[1], Atsushi Yamamoto[2]

[1] 海上保安庁水路部，[2] 海保大
[1] Hydrographic Department, Maritime Safety Agency, [2] Maritime Safety Academy

ヨーロッパ宇宙機関から入手したＥＲＳ－２高度計データ（３５日周期）１サイクル分から北西太平洋の海面高を図示し、ジオイドと海面高の関係を論じる。また、１９９７年１年分、１０サイクルの海面高変化を求め、これからそれぞれの期間の黒潮及びその続流の流路変動を求めた。

ヨーロッパ宇宙機関から入手したＥＲＳ－２高度計データ（３５日周期）１サイクル分から北西太平洋の海面高を図示し、ジオイドと海面高の関係を論じる。また、１９９７年１年分、１０サイクルの海面高変化を求め、これが、海流のコリオリ力と圧力傾度力が釣り合うことによる流域右側の海面高の高まり（およそ１．３ｍになる）であると仮定して、各のサイクル期間の黒潮及びその続流の流路変動を求めた。

日本南岸及び東方海域の各サイクルの海面高から１０サイクル分の平均高度を差し引いて求めた高度異常に基づく流路は、ノイズが多く、整合性もやや不十分であるが、相次ぐサイクルの海面高の差から、黒潮のこの２つのサイクルの前と後の流路を求めると、比較的分離がよく、房総沖付近の近海の流路変動は、水路部の海洋速報の示す流路と一致するものも多い。また、北緯３０度付近を西進する孤立 Rossby 波（冷水渦）をかなり明瞭に検出した。